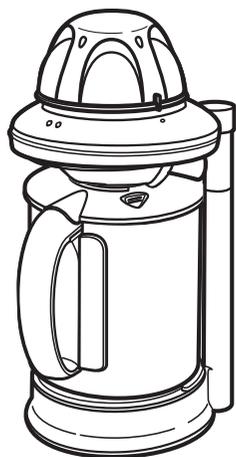


感動をデザインします

**TWINBIRD**

pdf版

マイコン  
電気豆乳メーカー  
**KC-D843**  
取扱説明書



このたびは、お買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。この取扱説明書をよく読んでから使用してください。不適切な取扱いは事故につながります。この取扱説明書は必ず保管してください。

RX0512A

もくじ

安全上のご注意	1
各部の名称とはたらき	2
使いかた	3~7
お手入れ	8
こんなときは	9
アフターサービス 仕様	10
交換用部品のお求めについて	

## ご使用上のご注意

ツインバード工業株式会社は、この資料並びにコンテンツの著作権を有しています。

この資料並びにコンテンツは、著作権法等の法律で保護されており、お客様はこの資料並びにコンテンツに関し下記に記載されている条件でのみ利用することができます。

- 1 お客様は非営利目的に限り、ダウンロード、使用することができます。
- 2 お客様がダウンロード、使用するときは、この著作権表示及び使用条件を一緒に付す必要があります。
- 3 お客様は、この資料並びにコンテンツを改変したり、頒布、公衆送信、上映等に利用することはできません。

当社及び当社の関係会社は、お客様に対して、この資料並びにコンテンツに関する著作権、特許権、商標権、意匠権及びその他の知的財産権をライセンスするものではありません。ならびに資料並びにコンテンツの内容についてもいかなる保証をするものでもありません。

またこの資料並びにコンテンツ内に別の定めがある場合は、当該著作権表示、使用条件を厳守する必要があります。

このコンテンツはWeb上で使用を前提とし再編集を加えているため、必ずしも製品添付の取扱説明書とは同一ではありません。特にページ順は編集上、入れ替えている場合があります。

この資料並びにコンテンツに保証書は掲載していません。

この資料並びにコンテンツに記載されている内容は、それぞれの商品の発売時点のものであります。

デザイン、仕様等は商品改良のため予告なく変更する場合があります。

# 安全上のご注意

必ずお守りください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

## 警告



**禁止** 子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わないでください。



けがややけどをする恐れがあります。



**接触禁止** カッター刃は鋭利ですので直接手を触れないでください。



けがの原因になります。



**水ぬれ禁止** 本体は水につけたり、水をかけたりしないでください。



ショート・感電の恐れがあります。



**分解禁止** 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。



発火したり、異常動作してけがをすることがあります。



**接触禁止** 豆乳を注ぐ時や容器からフタを取ると熱い蒸気が出ます。手や顔が蒸気に触れないよう注意してください。

## 注意



**強 制** 容器に必ず水を入れてください。お湯を入れると吹きこぼれてやけどの恐れがあります。



**禁止** できあがり直後に続けてスイッチを入れないでください。吹きこぼれてやけどの恐れがあります。



**禁止** 交流 100V以外では使用しないでください。火災・感電の原因になります。



**禁止** 電源コードを傷つけたり、破損させたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工したりすると、電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。



**禁止** 電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。感電・ショート・発火の原因になります。



使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。

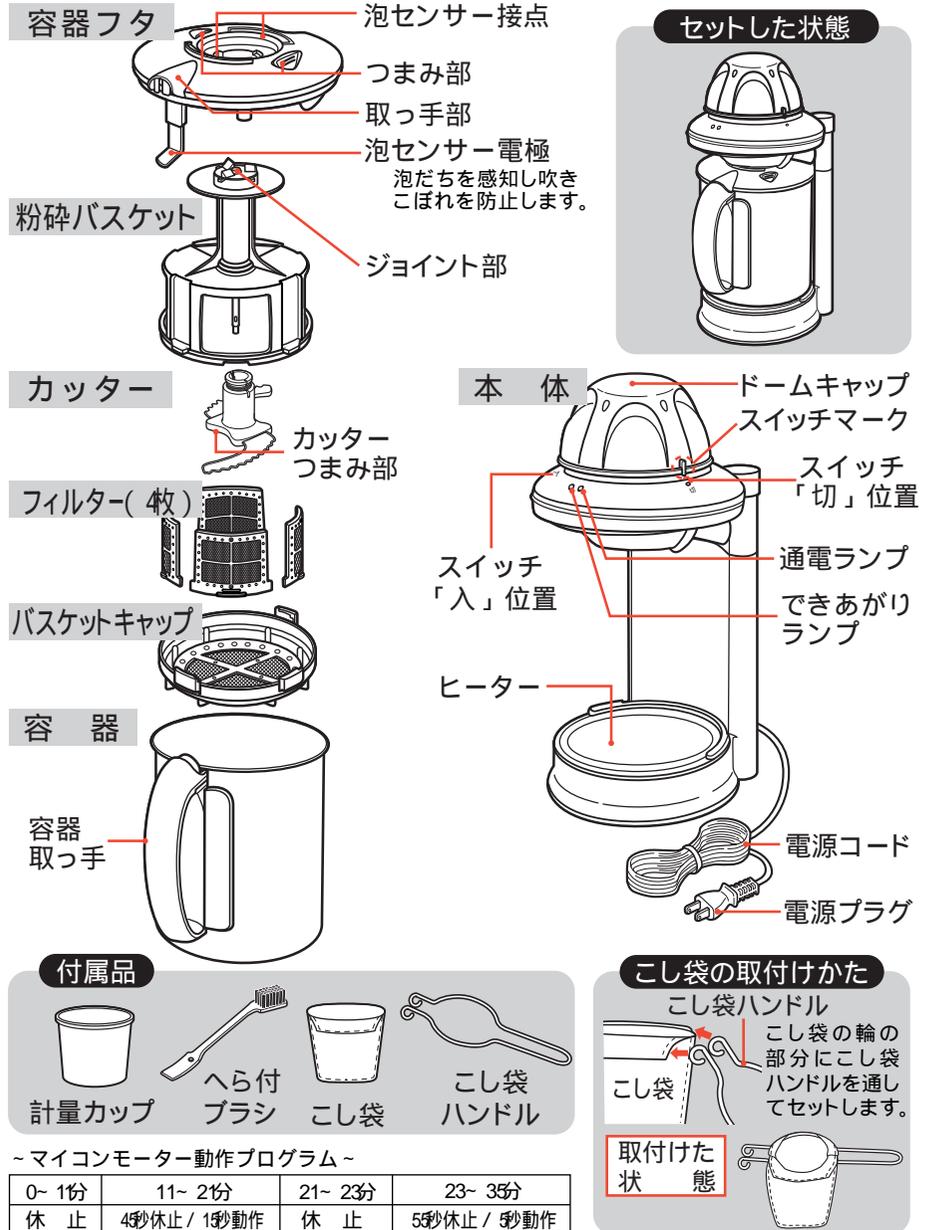


**接触禁止** 使用中の容器に触れないでください。使用中の容器は熱くなっていますので、触れるとやけどの原因になります。



**強 制** この製品は豆乳専用です。大豆と水以外の材料は使用しないでください。故障の原因になります。

# 各部の名称とはたらき

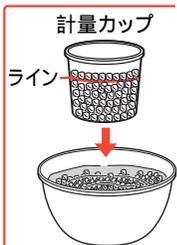


# 使いかた

## 1 乾燥大豆を計量します。(乾燥大豆をそのまま粉砕して豆乳をつくるができます。)



毎に使用する乾燥大豆は170gが適量です。付属の計量カップで、すり切り一杯の乾燥大豆をよく洗ってください。



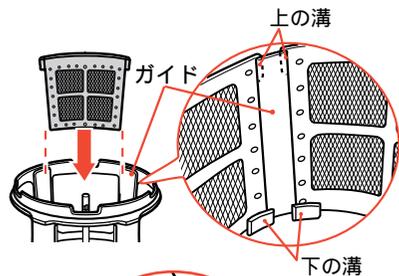
**水に浸した大豆を使用する場合**  
乾燥大豆から豆乳を作ると、豆乳の濃度が濃くなり大豆の風味が強くなります。大豆くさがりがでな人は大豆を水に浸してご利用ください。少しうすめに豆乳が出来上がります。  
乾燥大豆を付属の計量カップのライン(約130g)まで入れます。この大豆をよく洗ってボウルなどに入れ、水に浸します。  
乾燥大豆重量の3倍以上の水に5~7時間、冬の冷たい水の場合は8~10時間、大豆表面の皮のしわがとれるまで浸します。

### △注意

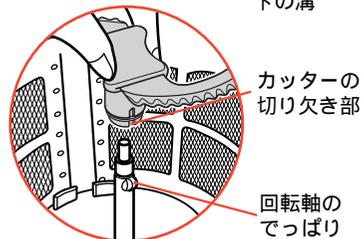
煎った大豆や大豆以外のものは使用しないでください。乾燥大豆は計量カップライン(約130g)より少なく入れないでください。ラインより少ない場合は、泡が発生しやすくなる為、吹きこぼれ防止の泡センサーがはたらき動作が停止する場合があります。泡センサーがはたらくと、通電ランプが点滅し、「ピー」というエラー警告音が連続して鳴り動作が停止しますが、故障ではありません。あらためて適量の大豆と水でやり直してください。(粉砕途中の大豆は再度使用できません。)



## 2 大豆を粉砕バスケットの中に入れます。



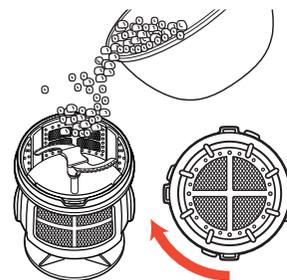
粉砕バスケットにフィルターを取付けます。  
内側のガイドにそってフィルター4枚を上から入れ、ガイドの上下の両側の溝にしっかりと差し込みます。



粉砕バスケットにカッターを取付けます。  
カッターつまみ部を持って回転軸のてっぺんとカッターの切り欠きを合わせて差し込みます。「カチッ」と音がして固定されるところまで確実に押し込みます。

### △注意

カッターの取付け・取りはずしの際は、刃の部分に触れないように注意してください。カッターが確実に取付けられていないと、大豆が粉砕されなかったり、カッターが破損する場合があります。

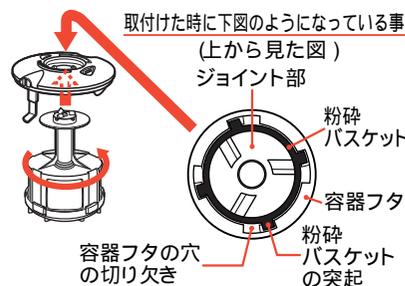


大豆を粉砕バスケットに入れます。  
大豆を水に浸した場合は、水をよくきってください。  
粉砕バスケットにバスケットキャップをかぶせ、矢印方向に回して取付けます。

### △注意

大豆の入った粉砕バスケットに、落下などの強い力を加えるとカッターがはずれる事があります。そのまま使用するとカッターが破損します。力が加わった場合はカッターをもう一度差し込み直してください。

## 3 粉砕バスケットを容器フタに取付けます。

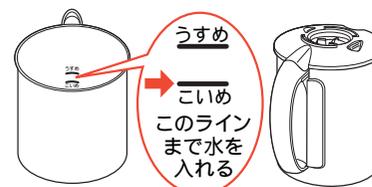


容器フタの水をふきとり、容器フタの中心に内側から粉砕バスケットのジョイント部を挿入します。この時、粉砕バスケットの突起と容器フタの穴の切り欠きを合わせてください。  
粉砕バスケットを矢印方向にしっかりと止まる位置まで回転させ、取付けます。

### △注意

粉砕バスケットが容器フタに固定されていないとジョイント部が破損する場合があります。  
粉砕バスケットが固定されていることを必ず確認してください。

## 4 容器に水を入れ、粉砕バスケットを取付けた容器フタをセットします。



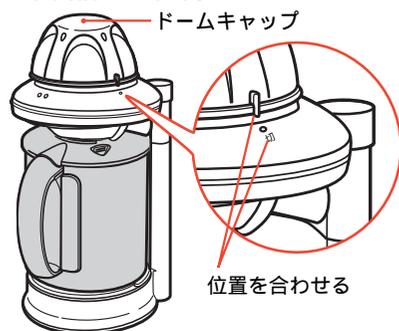
水を容器の目盛りの「こいめ」ラインまで入れます。水の入った容器の中に容器フタのついた粉砕バスケットを入れます。  
容器フタの取っ手部を容器取っ手の位置に合わせてフタをします。

粉砕バスケットが容器フタから外れていない事を確認してください。

### △注意

△熱いお湯は絶対に入れないでください。吹きこぼれてやけどや故障の原因になります。  
△水は「うすめ」目盛りより多くしないでください。多いと吹きこぼれてやけどや故障の原因になります。  
水は「こいめ」目盛りより少なくしないでください。少ないと大豆が、良く粉砕されなかったり、故障の原因になります。  
大豆を浸した水は使わないでください。豆乳に臭いがつきます。  
冬場、水温が低い場合、豆乳の濃度がうすくなり、味がうすく感じることがあります。その場合はぬるま湯(20~30)を使用すると豆乳の濃度(味)が濃くなります。その際は、お湯は必ずうすめてぬるま湯にして使用してください。

## 5. 容器を本体のヒーターの上に置きます。



スイッチマークを「切」の位置に合わせます。本体の前から容器を入れ、ヒーターの中央部に置きます。容器取手が図のように正面の位置になるようにして、容器が傾いていないことを確認してください。

### △注意とお願い

ドームキャップのスイッチマークを「切」の位置に合わせてください。合っていない場合、容器は本体に入りません。ヒーターと容器の底の間にゴミ等の異物が入らないようにしてください。異物が入ると熱が容器に伝わらず、豆乳の温度が上がりにません。

## 6. スイッチを入れます。



電源プラグをコンセントに差し込みます。ドームキャップを矢印方向に止まるまで回転させ、スイッチマークを「入」の位置に合わせます。

ドームキャップを回した時、回転がかたい場合や「入」の位置まで回転しない場合は、一度ドームキャップを「切」の位置にもどし、容器を入れなおしてください。無理に回すと粉碎バスケットのジョイント部が破損します。

スイッチが入り、通電ランプが点灯し、マイコン制御で調理を開始します。

カッターは約1分後から回転します。

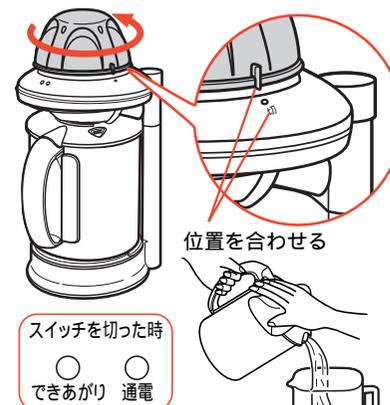
約35分で豆乳が出来上がります。「できあがり」ランプが点灯し、「ピー、ピー」とブザー音が鳴ります。(出来上がりの豆乳温度は約80~95ですが、季節によって異なります。特に寒い季節ではぬるく出来上がる事がありますので、20~30程度の水を使用するか出来上がり後、別の容器に移して再度加熱してください。

「できあがり」後、2分間保温します。それ以上放置しておくと豆乳の温度が下がります。「できあがり」後、早めに豆乳を取り出してください。

### △注意

- △感電や製品故障防止のために、ぬれた手で操作しないでください。
- △使用中、容器とヒーターは熱くなります。また、容器から蒸気が出ることがあります。やけど防止のため、触れないようにしてください。
- 使用中電源を切らないでください。マイコンでモーターとヒーターの通電時間を制御していますので途中で電気が切れると、うまく豆乳が出来なかったり、吹きこぼれの原因になります。スイッチを入れた直後や動作途中で通電ランプが点滅し「ピー」と連続したブザー音がなった場合は、「こんなときは」(9ページ)をご覧ください。
- 動作中に粉碎音が変わることがあります。大豆の粉碎状態の変化によるもので異常ではありません。水に浸した大豆にくらべ、乾燥大豆を使用する場合、粉碎音が大きくなりますが異常ではありません。

## 7. 豆乳を取り出します。



スイッチマークを「切」の位置に合わせます。「通電」ランプ、「できあがり」ランプが消え、スイッチが切れます。

電源プラグをコンセントから抜きます。

容器取っ手を持って容器を本体から取り出します。容器フタの上にふきんなどを置き、手が熱くないようにして容器フタを押さえ、容器から豆乳を他の容器に移します。

豆乳を全部移したら、容器フタをした状態で2~3分置いてください。粉碎バスケットから豆乳がしみ出てきて容器に少したまりますので、同様に他の容器に移してください。

熱いうちに飲みたい時はそのまま飲んでください。冷やして飲みたい時は、さましてから冷蔵庫に入れてください。

なま物ですので、早めにお召し上がりください。

できあがった豆乳には、ごく微細なおから分が混じります。気になるときは付属のこし袋で熱いうちにこしてください。使用後は、こし袋をこし袋ハンドルより取りはずし、よく洗って保管してください。



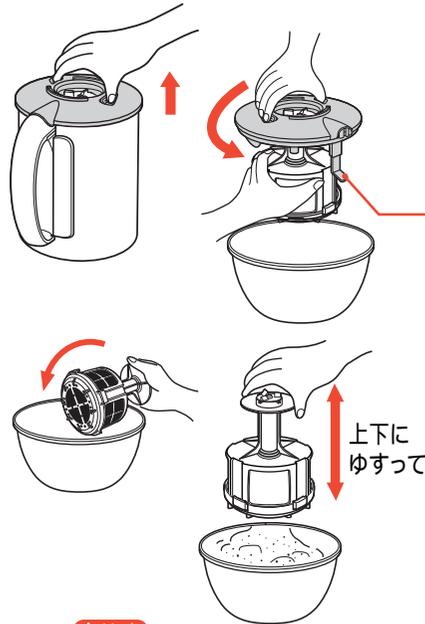
### △警告

豆乳を注ぐ時や容器からフタを取ると熱い蒸気が出ます。手や顔が蒸気に触れないよう注意してください。

### △注意

- △電源プラグを抜く時は、必ず電源プラグを持って引き抜いてください。
- △容器とヒーターは熱くなっています。容器取っ手以外に触れないよう注意してください。ドームキャップのスイッチマークを「切」の位置まで回さないと、容器が本体からはずれません。容器は直火にはかけられません。再加熱のときは、別のなべに入れて行ってください。容器から粉碎バスケットを取り出す際に熱い豆乳が滴り落ちますので、お皿等で受けてから移動させてください。容器に豆乳を入れたまま、保存しないでください。

## 8.おからを出します。(容器が冷めてからにしてください。)



容器フタのつまみ部を持って上へ持ち上げます。あらかじめ深めの容器を用意しておき、その上に置きます。粉碎バスケットが冷めてから容器フタを矢印方向に回しはさずします。(容器フタから泡センサー電極が出ていますので注意してください。)

泡センサー電極

バスケットキャップが冷めてから、粉碎バスケットを深めの容器の上で横にし、バスケットキャップを矢印方向に回してはさずします。

深めの容器の上で粉碎バスケットを上下にゆすっておからを出します。おからは料理にも使えます。

**お願い**

大豆の品質により少量の大豆が粉碎されずに残る場合があります。その場合は大豆の量を少し減らすとよく粉碎されて残りにくくなります。

**△注意**

粉碎バスケットが冷めても、中のおからは熱くなっています。手に触れるとやけどの恐れがあります。ご注意ください。バスケットキャップを下にしてはさずすと、中のおからが出てきて手に触れる場合があります。必ず横にしてはさずしてください。

## 9.お手入れをしてください。

粉碎バスケット、フィルター、カッター、バスケットキャップ、容器、容器フタをよく洗ってください。おからや豆乳が残っていると変色や臭いの発生の原因になりますし、バスケットキャップやフィルターの網の目がつまり、大豆がよく粉碎されない原因になります。「お手入れ」(8ページ)をご覧ください。

### 次の豆乳を作るとき注意

連続して豆乳を作らないでください。故障の原因になります。次に豆乳を作る時は必ず、30分以上休ませてから使用してください。豆乳、おからを必ず取り出し、お手入れの後新しい大豆、水を入れてから使用してください。豆乳完成後、豆乳、おからを取り出さない状態で、そのままスイッチを入れ直すと吹きこぼれや故障の原因になりますので、絶対にしないでください。

## お手入れ

お手入れをする時は、スイッチを切り電源プラグを抜いて行ってください。乾かないうちに洗ってください。おからは乾くと硬くなって取れにくくなります。洗った後は必ずふきなどで水気を取り、乾かしてください。ぬれたままにしておくとも臭いがすることがあります。カッターやフィルターはぬれたままにしておかないでください。さびることがあります。金属たわしや、金属ヘラ、クレンザーは使用しないでください。食器洗い乾燥器では洗わないでください。変形することがあります。

ご使用されるにつれ、粉碎バスケット・フィルター・バスケットキャップの色が変わりますが、人体に影響はありません。

### 容器



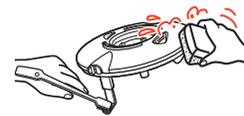
細かいおからや豆乳分が底にこびりつきます。付属のへら付ブラシなどで底のこびりつきをこすって落としてください。内面をたわしなどでこすって豆乳かすをきれいに落としてください。きれいに洗ったら必ず乾かしてください。

### 粉碎バスケット



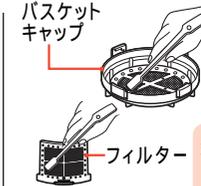
必ずカッターをはずしてからお手入れを行ってください。カッターはつまみ部を持ってひっぱると取れます。水をかけておからを流し落とします。フィルターをはずし、粉碎バスケットの内・外面を付属のへら付ブラシでこすり汚れを落とします。プラスチック面はスポンジでこすって汚れを落とします。

### 容器フタ



外面は水をかけてスポンジで洗ってください。細かい所はブラシで洗ってください。

### フィルター・バスケットキャップ



大きなおからは水をかけて流し落とします。網に付いたおからは水を付け付属のへら付ブラシで両面を、良くこすって落としてください。

**お願い**

網に付いたおからは乾燥すると取れにくくなります。乾燥する前にブラシできれいに落としてください。

### カッター



粉碎バスケットから取りはずし、付属のへら付ブラシで水をかけてこすってください。

**△注意**

カッターの刃の部分は鋭利ですので手を触れないよう注意してください。

### 本体



濡ったふきんできれいにふき取ります。

**△注意**

ヒーターが冷めてからお手入れしてください。水洗いは絶対にしないでください。

### ワンポイントアドバイス

#### 汚れが落ちにくい場合や、汚れが乾燥してしまった場合

一度ぬるま湯に浸けてしばらく放置し、汚れが柔らかくなってからお手入れをしてください。ぬるま湯に浸けるとき「食器洗い乾燥機用洗剤」を入れると一層効果的です。目安として、粉碎バスケット・フィルター・バスケットキャップ・カッターがひたるだけのぬるま湯、約4lに対して、約10gの洗剤を入れ約30分放置します。

## こんなときは... ご使用中に異常が生じたときは、まず次の点をお調べください。

こんなときは	原因	処置
容器が本体に入らない。	容器フタが容器の正しい位置にしっかりセットされていますか？ ドームキャップのスイッチマークが「切」の位置になっていますか？	容器フタを正しい位置にしっかりセットします。 ドームキャップのスイッチマークを「切」の位置にします。
通電ランプが点灯しない。	本体の電源が接続されていますか？ ドームキャップのスイッチマークが「入」の位置になっていますか？	電源プラグをコンセントに差し込みます。 ドームキャップのスイッチマークを「入」の位置にします。
スイッチを入れた直後通電ランプが点滅し「ピー」という音が鳴り続ける。容器の位置検知でエラーになり、動作が停止しています。	容器が正しくヒーターの中央部に置かれていますか？ 容器が傾いていませんか？ 容器フタがぬれていませんか？	ドームキャップを「切」まで回してから容器を取り出し、再度ヒーターの中央部に置いてください。 容器フタの水をふき取ってください。
動作の途中で通電ランプが点滅し「ピー」という音が鳴り続ける。カッター動作初期に多くの泡を検知、又はカッターを動かしているモーターの過熱を検知してエラーになり、動作が停止しています。	乾燥大豆を付属の計量カップのラインより少なくしていませんか？ 水量が「こいめ」の目盛りより少なくありませんでしたか？ 30分以上休ませないで連続して豆乳を作っていますか？ 豆乳を作っている途中で電源が切れ、再度電源を入れませんでしたか？	乾燥大豆を付属の計量カップで計り170gとしてください。(水に浸す場合は130g) 3ページをご覧ください。 水を容器の「こいめ」「うすめ」の目盛りの範囲内に入れてください。 30分以上休ませてから使用してください。 電源が切れた場合は、続けずに、新しく作りなおしてください。
多くの大豆が粉碎されないそのままの形で残る。	乾燥大豆を170g水に浸す場合は130g以上使っていませんか？ 浸した大豆を使った場合、大豆を浸す時間が短かすぎませんでしたか？ 水が「こいめ」の目盛りより少なくありませんでしたか？ フィルターやバスケットキャップの網の目がつまっていますか？ カッターが外れていませんか？	乾燥大豆を付属の計量カップで計り170g水に浸す場合は130gとしてください。3ページをご覧ください。 大豆を5~7時間、冬の冷たい水の場合は8~10時間大豆表面のしわが取れるまで水に浸してください。 水を容器の「こいめ」「うすめ」の目盛りの範囲内に入れてください。 網をよくブラシで洗ってください。「お手入れ」(8ページ)をご覧ください。 カッターを「カチッ」と音がして固定される所まで差し込んでください。
豆乳がふきこぼれる。	容器フタのセンサー接点が汚れていませんか？ 豆乳を作っている途中で電源が切れ、再度電源を入れませんでしたか？	容器フタのセンサー接点の汚れをふき取ってください。 電源が切れた場合は、続けずに、新しく作りなおしてください。
豆乳が熱くならない。	容器に水を「うすめ」の目盛りより多く入れすぎいませんか？ ヒーターと容器の間にゴミ等の異物がはさまっていませんか？ 冷たい水を使っていますか？	水を容器の「こいめ」「うすめ」の目盛りの範囲内に入れてください。 異物を取り除いてください。 冬場等で冷たい水の場合は、お湯を足して、20~30にしてご使用ください。

## アフターサービス

### 1.保証書

裏表紙に添付しています。  
保証書は「お買い上げ日と販売店名」の記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。  
保証書をよくお読みになり大切に保管してください。

### 2.保証期間

お買い上げ日から 1年間です。

### 3.修理を依頼されるとき

取扱説明書の内容をお確かめいただき、直らないときは電源プラグを抜いてからお買い上げの販売店または当社「お客様サービス係」に修理をご相談ください。  
保証期間中の修理  
保証書の規定により無料修理します。  
商品に保証書を添えてお買い上げの販売店か当社「お客様サービス係」までお申し出ください。  
保証期間がすぎている修理  
修理により使用できる製品は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。お買い上げの販売店か当社「お客様サービス係」にご相談ください。

### 4.アフターサービスについてご不明の場合

当社「お客様サービス係」にお問い合わせください。

修理料金のしくみ  
修理料金は、技術料・部品代などで構成されています。

技術料	故障した商品の修理および部品交換などの作業にかかる料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。

### お客様サービス係

☎(フリーダイヤル) 0120-337-455

FAX (0256) 93-1077

お電話承り時間: 平日(月曜~金曜) 午前時~午後5時  
〒959-0292 新潟県燕市吉田西太田2084-2

お客様ご自身の修理は大変危険です。分解したり手を加えたりしないでください。

## 仕様

電 源	AC 100V 50-60Hz
定 格 消 費 電 力	730W
容 量	乾燥大豆：170g 3ページをご覧ください。(水に浸す場合は130g) 水：約0.9ℓ(容器の「こいめ」ライン)
できあがり容量(約)	豆乳：0.5ℓ(乾燥大豆の利用時)
できあがり時間の目安(約)	35分
製 品 寸 法(約)	185x 205x 385mm
製 品 質 量(約)	2.9kg
電 源 コ ー ド(約)	長さ 1.4m
付 属 品	豆乳健康読本、こし袋、こし袋ハンドル、へら付ブラシ、計量カップ

### 交換用部品

交換用部品のお求めは、販売店または直接当社「お客様サービス係」へお申し込みください。

粉碎バスケット	容器フタ	容器	こし袋ハンドル	計量カップ
				
フィルター	バスケットキャップ	カッター	こし袋	へら付ブラシ
				